

2022年3月期第3四半期決算説明会



2022年1月31日
西日本旅客鉄道株式会社

- 総合企画本部副本部長の坪根でございます。
- 本日はお忙しいところ、弊社説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。
- それでは資料も参照しながらご説明します。
- 3ページをご覧ください。

1 22.3期第3四半期決算及び通期予想の概要 P. 3

2 22.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細） P. 7

3 ESGの取り組み P. 18

1 22.3期第3四半期決算及び通期予想の概要 P. 3

2 22.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細） P. 7

3 ESGの取り組み P. 18

22.3期第3四半期決算及び通期業績予想の概要

(単位：億円)								
	21.3期	22.3期	対前年		21.3期	22.3期	対前年	
	3Q累計実績*	3Q累計実績	差額	比率	通期実績*	通期予想 (1/31)**	差額	比率
【連結】								
営業収益	6,518	7,299	+780	112.0%	9,200	10,520 ~10,890	+1,319 ~+1,689	114.3% ~118.4%
営業費用	8,274	8,094	▲179	97.8%	11,655	11,810 ~11,830	+154 ~+174	101.3% ~101.5%
営業利益/損失(▲)	▲1,755	▲794	+960	-	▲2,455	▲1,290 ~▲940	+1,165 ~+1,515	-
経常利益/損失(▲)	▲1,892	▲826	+1,066	-	▲2,573	▲1,415 ~▲1,065	+1,158 ~+1,508	-
親会社株主に帰属する 当期純利益/損失(▲)	▲1,618	▲540	+1,077	-	▲2,331	▲1,165 ~▲815	+1,166 ~+1,516	-
【単体】								
運輸収入	3,150	3,651	+501	115.9%	4,190	4,990 ~5,320	+799 ~+1,129	119.1% ~127.0%
営業費用	5,396	5,102	▲293	94.6%	7,406	7,230	▲176	97.6%

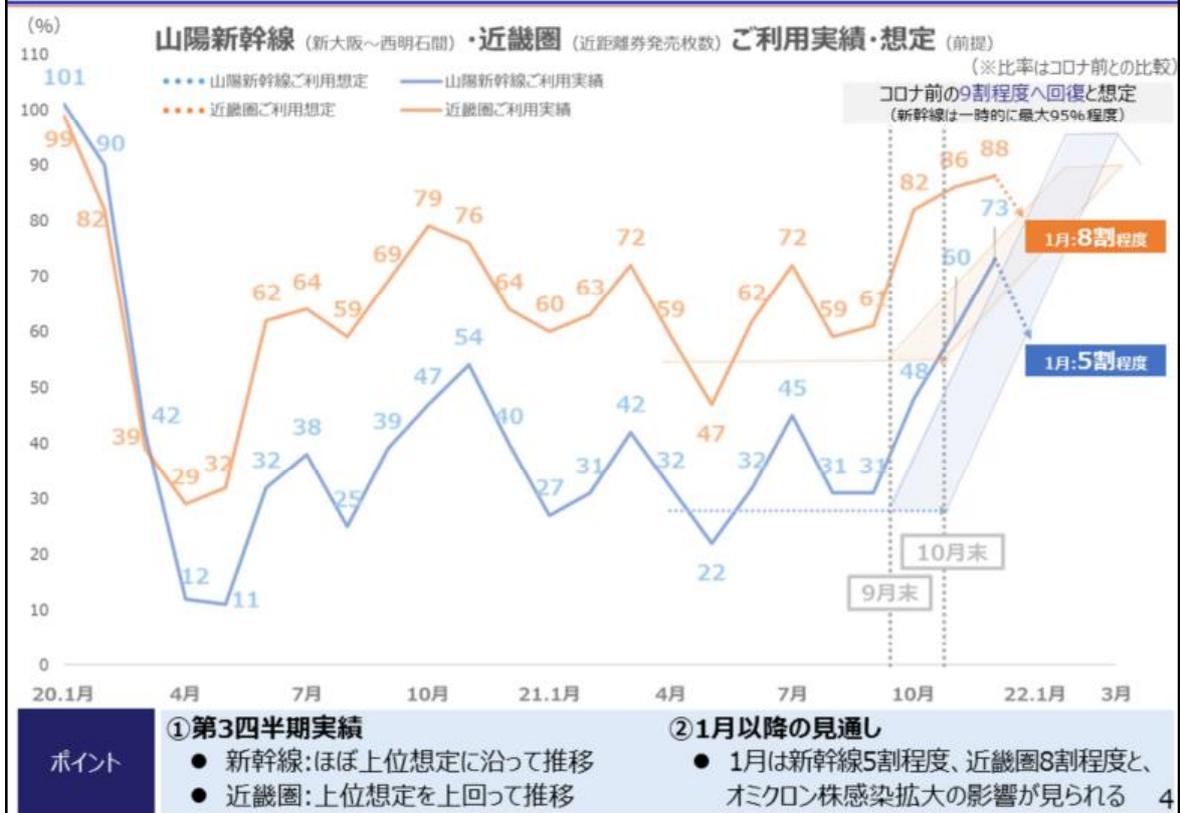
* 2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっています
** 2021年11月2日発表の通期予想から変更していません

- **第3四半期**は、鉄道事業が上位想定に対して上振れ、非鉄道事業も同様に回復基調。
- **コスト削減**の取り組みについても、構造的削減▲60億円を実現するなど**順調に進捗**
- 一方、オミクロン株感染拡大により、先行きは急速に不透明に。**通期業績予想は据え置く**

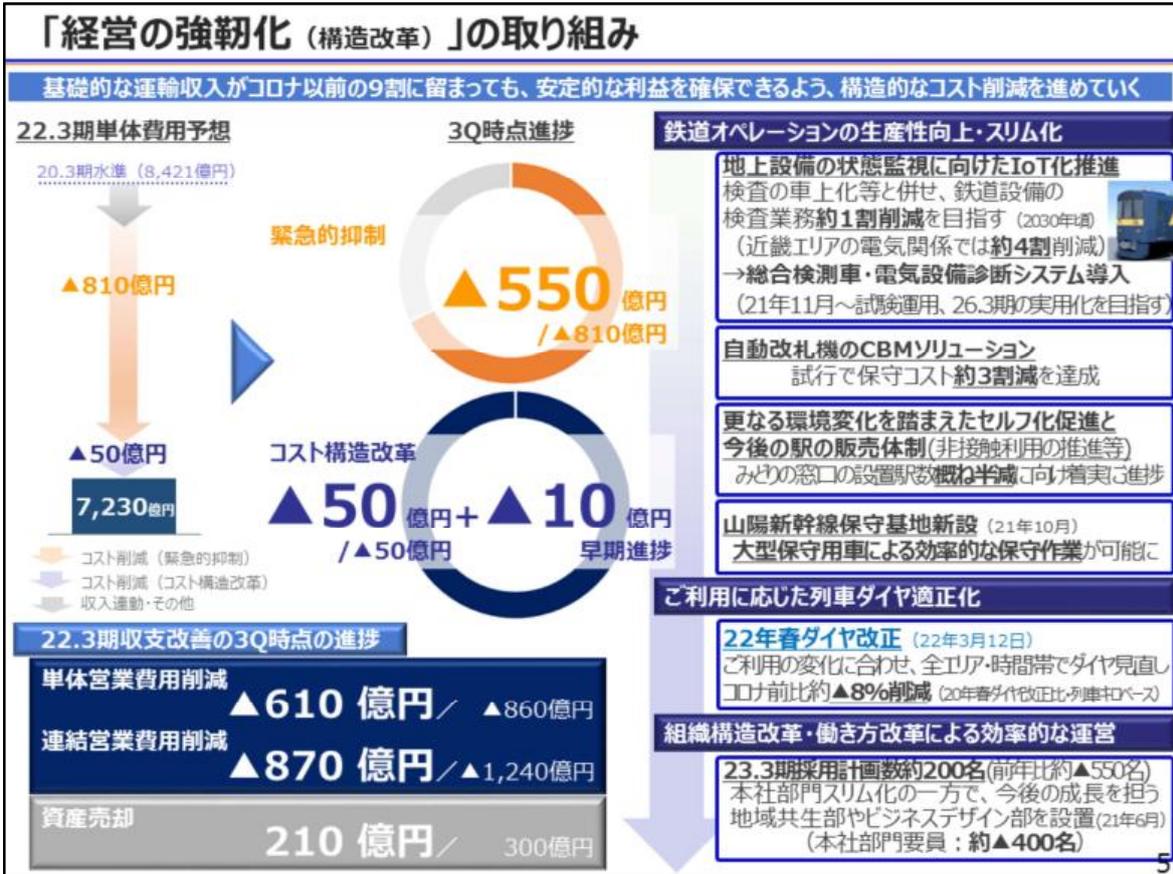
3

- 決算の概要でございます。
- 第3四半期累計では、上期における緊急事態宣言の発出・延長など、コロナ影響の長期化等により、当社グループの事業は昨年度に引き続き厳しい状況となりました。
- 結果、第3四半期累計で連結営業収益が7,299億円、連結営業損失が▲794億円、連結当期純損失が▲540億円でした。
- コスト削減につきましては、安全の確保を前提に取り組みを進め、連結で対前々年度▲870億円の削減を実行しました。
- 第3四半期の3か月間は期間を通じてご利用は回復基調にございましたが、1月以降、オミクロン株による新規感染が急拡大しており、急速に不透明感が増していることなどから、通期の業績予想につきましては、据え置くこととしております。
- 4ページをご覧ください。

22.3期運輸収入想定の前提



- 9月末に緊急事態宣言が全面的に解除されたことなどを受け、第3四半期の3か月間は回復基調が継続し、山陽新幹線・近畿圏とも通期業績予想上の上位想定を上回って推移しました。
- 1月のご利用は山陽新幹線が前々年比で平均5割程度ですが、記載はありませんが、直近の足元では山陽新幹線が4割、近畿圏が8割をそれぞれ割っている状況であり、オミクロン株の新規感染急拡大を受け、残念ながらご利用も大きく影響を受けています。
- コロナが収束しポストコロナとなった時、ご利用がコロナ前の9割程度に到達するという見方は変えておりませんが、今期末はwithコロナの状況で迎える可能性が高いと考えています。
- 5ページをご覧ください。



- 経営の強靱化、構造改革につきましては、基礎的な運輸収入がコロナ前の9割にとどまっても安定的な利益を確保できるよう、構造的なコスト削減の取り組みを進めています。
- スライド中央にお示ししているとおり、今期はこのコスト構造改革の取り組みにより▲50億円削減する計画でしたが、来期実施予定であったものが早期に進捗した部分もあり、第3四半期末時点で▲60億円の構造的削減となりました。
- 緊急的抑制の▲550億円と合わせ、単体で▲610億円のコスト削減、連結では▲870億円のコスト削減を実施しております。
- 続いて、8ページをご覧ください。

1 22.3期第3四半期決算及び通期予想の概要 P. 3

2 22.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細） P. 7

3 ESGの取り組み P. 18

決算ハイライト

(単位:億円)

	2021年3月期 3Q累計実績*	2022年3月期 3Q累計実績	対前年		2021年3月期 通期実績*	2022年3月期 通期予想 (1/31)**	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
	A	B			C	D		
【連 結】								
営業収益	6,518	7,299	+780	112.0	9,200	10,520 ~10,890	+1,319 ~1,689	114.3 ~118.4
営業損失 (▲)	▲ 1,755	▲ 794	+960	-	▲ 2,455	▲ 1,290 ~▲940	+1,165 ~1,515	-
経常損失 (▲)	▲ 1,892	▲ 826	+1,066	-	▲ 2,573	▲ 1,415 ~▲1,065	+1,158 ~1,508	-
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失(▲)	▲ 1,618	▲ 540	+1,077	-	▲ 2,331	▲ 1,165 ~▲815	+1,166 ~1,516	-
【単 位】								
営業収益	3,804	4,307	+503	113.2	5,068	5,890 ~6,220	+821 ~1,151	116.2 ~122.7
運輸入入	3,150	3,651	+501	115.9	4,190	4,990 ~5,320	+799 ~1,129	119.1 ~127.0
営業費用	5,396	5,102	▲ 293	94.6	7,406	7,230	▲ 176	97.6
人件費	1,387	1,348	▲ 39	97.2	1,838	1,790	▲ 48	97.3
物件費	2,493	2,326	▲ 167	93.3	3,544	3,535	▲ 9	99.7
動力費	302	294	▲ 7	97.4	395	395	▲ 0	99.8
修繕費	989	895	▲ 94	90.4	1,519	1,395	▲ 124	91.8
業務費	1,201	1,136	▲ 64	94.6	1,628	1,745	+116	107.1
減価償却費	1,036	943	▲ 93	91.0	1,410	1,290	▲ 120	91.5
営業損失 (▲)	▲ 1,592	▲ 795	+796	-	▲ 2,338	▲ 1,340 ~▲1,010	+998 ~1,328	-
経常損失 (▲)	▲ 1,741	▲ 886	+855	-	▲ 2,507	▲ 1,485 ~▲1,155	+1,022 ~1,352	-
四半期(当期)純損失(▲)	▲ 1,303	▲ 523	+779	-	▲ 2,173	▲ 1,170 ~▲840	+1,003 ~1,333	-

*2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております
**2021年11月2日発表の通期予想から変更しております

単体損益計算書と業績予想

(単位：億円)

	2021年3月期 3Q累計実績*	2022年3月期 3Q累計実績	対前年		2021年3月期 通期実績*	2022年3月期 通期予想 (1/31)**	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
	A	B			C	D		
営業収益	3,804	4,307	+503	113.2	5,068	5,890	+821	116.2
運輸収入	3,150	3,651	+501	115.9	4,190	~6,220	~+1,151	~122.7
その他収入	654	656	+2	100.3	878	~4,990	+799	119.1
						~5,320	~+1,129	~127.0
						900	+21	102.5
営業費用	5,396	5,102	▲293	94.6	7,406	7,230	▲176	97.6
人件費	1,387	1,348	▲39	97.2	1,838	1,790	▲48	97.3
物件費	2,493	2,326	▲167	93.3	3,544	3,535	▲9	99.7
動力費	302	294	▲7	97.4	395	395	▲0	99.8
修繕費	989	895	▲94	90.4	1,519	1,395	▲124	91.8
賃借費	1,201	1,136	▲64	94.6	1,628	1,745	+116	107.1
建屋使用料等	206	200	▲6	97.0	276	270	▲6	97.7
租税公課	272	285	+12	104.7	336	345	+8	102.4
減価償却費	1,036	943	▲93	91.0	1,410	1,290	▲120	91.5
営業損失(▲)	▲1,592	▲795	+796	-	▲2,338	▲1,340	+998	-
						~▲1,010	~+1,328	-
営業外損益	▲149	▲91	+58	-	▲169	▲145	+24	-
営業外収益	33	82	+48	-	84	90	+5	-
営業外費用	182	173	▲9	-	253	235	▲18	-
経常損失(▲)	▲1,741	▲886	+855	-	▲2,507	▲1,485	+1,022	-
						~▲1,155	~+1,352	-
特別損益	▲32	218	+251	-	▲239	235	+474	-
特別利益	68	294	+226	-	250	280	+29	-
特別損失	100	75	▲24	-	490	45	▲445	-
四半期(当期)純損失(▲)	▲1,303	▲523	+779	-	▲2,173	▲1,170	+1,003	-
						~▲840	~+1,333	-

*2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております
**2021年11月2日発表の通期予想から変更しております

8

- ここからは、第3四半期決算の詳細でございます。
- まず、単体決算ですが、営業収益は、対前年で運輸収入の増により、503億円の増。
- 営業費用は、対前年で▲293億円の減。安全に関する施策は着実に実施したうえで、対前年で▲210億円の節減を実施したほか、減価償却費の減等によります。
- 利益面では、新型コロナウイルス感染症による影響の長期化により、営業損益では▲795億円の損失、純損益は▲523億円の損失でした。
- 但し、第3四半期の3か月間では、8四半期ぶりの営業黒字に転じております。
- 9ページをご覧ください。

運輸収入の主な増減要因

(単位：億円)

		2022年3月期 3Q累計実績			
		運輸収入	対前年	主な増減要因	
新幹線		1,581	+334 (126.8%)	基礎トレンド(100.0%)	
				・コロナ影響(国内)の反動増	+342
				特殊要因	
				等	
在来線	近畿圏	1,580	+125 (108.6%)	基礎トレンド(100.0%)	
				・コロナ影響(国内)の反動増	+121
	その他	489	+42 (109.4%)	基礎トレンド(100.0%)	
				・コロナ影響(国内)の反動増	+36
在来線計	2,070	+167 (108.8%)	等		
運輸収入計		3,651	+501 (115.9%)		

※荷物収入は金額些少のため省略

9

- 運輸収入につきましては、コロナ影響がやや軽減したことにより、前年同期比で501億円の増加となりました。記載はありませんが、前々年比では54%、第3四半期の3ヶ月では68%と第2四半期の48%より大きく改善しました。
- 続いて11ページをご覧ください。

運輸収入と旅客輸送量の実績と業績予想

	運輸収入 (単位：億円)						輸送人キロ (単位：百万人キロ)									
	3Q累計実績 (4/1~12/31)			3Q実績 (10/1~12/31)			3Q累計実績 (4/1~12/31)			3Q実績 (10/1~12/31)						
	2021年 3月期*	2022年 3月期	対前年	2021年 3月期*	2022年 3月期	対前年	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年				
全社計	3,150	3,651	+101 118.9%	1,326	1,551	+224 117.0%	4,190	4,990 ~5,320	+799 ~1,129	119.1%	25,951	28,273	+2,322 108.9%	10,101	11,008	+904 109.0%
新幹線	1,246	1,581	+334 128.8%	587	751	+163 127.8%	1,655	2,145 ~2,375	+489 ~719	129.8%	5,835	7,280	+1,443 124.8%	2,806	3,473	+667 123.8%
定期	77	80	+3	25	26	+1	101	-	-	-	593	623	+30	194	205	+10
定期外	1,169	1,500	+331 128.2%	561	724	+162 128.2%	1,553	-	-	-	5,241	6,657	+1,413 127.0%	2,611	3,268	+654 122.1%
在来線	1,903	2,070	+167 108.8%	738	800	+61 108.3%	2,534	2,845 ~2,945	+310 ~410	112.2%	20,115	20,993	+877 104.4%	7,295	7,534	+239 103.3%
定期	890	905	+14 101.7%	305	303	-2 99.2%	1,173	-	-	-	14,516	14,669	+153 101.1%	4,848	4,881	+32 100.7%
定期外	1,012	1,165	+152 112.0%	433	496	+63 116.7%	1,361	-	-	-	5,599	6,323	+724 112.9%	2,446	2,653	+205 108.4%
近畿圏	1,455	1,580	+125 108.6%	556	597	+40 107.2%	1,941	2,175 ~2,240	+233 ~298	112.0%	15,907	16,658	+751 104.7%	5,756	5,921	+164 102.8%
定期	728	742	+13 101.9%	250	249	-1 99.2%	962	-	-	-	11,791	11,983	+191 101.6%	3,971	4,002	+31 100.8%
定期外	726	838	+111 112.4%	306	348	+42 112.7%	979	-	-	-	4,115	4,675	+559 112.8%	1,784	1,918	+132 107.2%
その他	447	489	+42 109.4%	181	202	+20 111.8%	593	670 ~705	+76 ~111	112.9%	4,208	4,334	+124 103.0%	1,538	1,613	+74 104.8%
定期	161	163	+1 100.2%	55	54	-1 98.2%	211	-	-	-	2,724	2,686	-38 98.6%	876	878	+1 100.2%
定期外	285	326	+40 114.2%	126	148	+21 117.2%	382	-	-	-	1,483	1,647	+164 111.2%	661	734	+72 111.0%

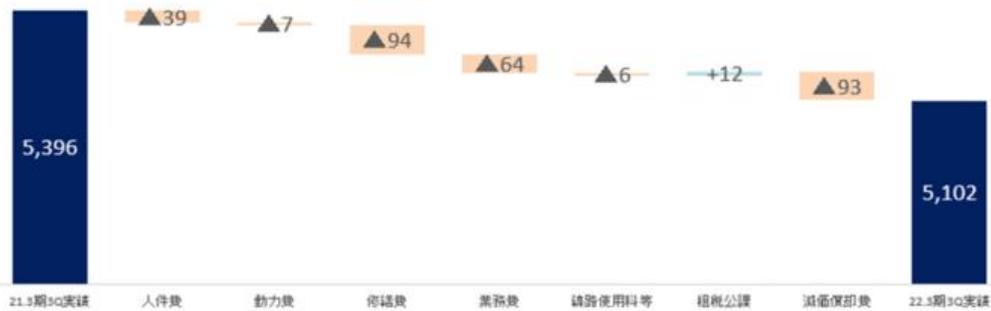
*2021年3月期の実績は、「収益部指に関する会計部事」を遡って適用した後の数値となっております

**2021年11月2日発表の連絡予想値から変更してありません

単体営業費用の主な増減要因

(単位：億円)

	2022年3月期 3Q累計実績			主な増減要因
		対前年		
人件費	1,348	▲ 39	97.2%	賞与の減、人員の減 等
動力費	294	▲ 7	97.4%	車両キロ差 等
修繕費	895	▲ 94	90.4%	工事進捗差、施策抑制による減 等
業務費	1,136	▲ 64	94.6%	会社間清算の減、業務委託費の減、広告宣伝費の減 等
線路使用料等	200	▲ 6	97.0%	東西線使用料の減 等
租税公課	285	+12	104.7%	法人事業税の増 等
減価償却費	943	▲ 93	91.0%	新幹線車両の償却方法見直し 等
営業費用計	5,102	▲ 293	94.6%	



11

- 単体営業費用についてご説明いたします。
- まず人件費ですが、賞与減や人員差などにより、▲39億円減少いたしました。
- 動力費は資源価格高騰や再エネ賦課金の増はあったものの、ダイヤ適正化に伴う車両キロ減などにより、▲7億円減となりました。
- 修繕費は、工事の進捗差や、不急の工事について時期調整を行ったことなどにより、▲94億円の減少となっております。
- 業務費につきましては、委託業務の見直しや広告宣伝費の節減などにより、▲64億円減少しました。
- 減価償却費は、新幹線車両の償却方法見直しなどにより、▲93億円減となりました。
- その他営業費目につきましては記載の通りでございます。
- 13ページをご覧ください。

連結損益計算書と業績予想

(単位:億円)

	2021年3月期 3Q累計実績*	2022年3月期 3Q累計実績	対前年		2021年3月期 通期実績*	2022年3月期 通期予想 (1/31)**	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
	A	B			C	D		
営業収益	6,518	7,299	+780	112.0	9,200	10,520 ~10,890	+1,319 ~1,689	114.3 ~118.4
営業費用	8,274	8,094	▲179	97.8	11,655	11,810 ~11,830	+154 ~174	101.3 ~101.5
営業損失(▲)	▲1,755	▲794	+960	-	▲2,455	▲1,290 ~▲940	+1,165 ~1,515	-
営業外損益	▲137	▲31	+105	-	▲118	▲125	▲6	-
営業外収益	63	160	+97	-	130	132	+1	-
営業外費用	200	192	▲8	-	248	257	+8	-
経常損失(▲)	▲1,892	▲826	+1,066	-	▲2,573	▲1,415 ~▲1,065	+1,158 ~1,508	-
特別損益	▲96	225	+322	-	▲173	240	+413	-
特別利益	118	329	+211	-	319	-	-	-
特別損失	214	104	▲110	-	493	-	-	-
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失(▲)	▲1,618	▲540	+1,077	-	▲2,331	▲1,165 ~▲815	+1,166 ~1,516	-
四半期包括利益	▲1,678	▲543	+1,135	-	▲2,404	-	-	-

*2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております
**2021年11月2日発表の通期予想から変更してありません。

セグメント情報と業績予想

(単位：億円)

	2021年3月期 3Q累計実績 ^{*)}	2022年3月期 3Q累計実績	対前年		2021年3月期 通期実績 ^{*)}	2022年3月期 通期予想 (1/31) ^{*)}	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
営業収益 ^{*)}	6,518	7,299	+780	112.0	9,200	10,520	+1,319	114.3
運輸業	3,540	4,065	+525	114.8	4,697	5,580	+882	118.8
流通業	813	926	+112	113.8	1,087	1,480	+392	136.1
物販・飲食	661	762	+101	115.3	882	1,212	+329	137.3
【準合併化業ホテル】(異種) ^{*)}	[30]	[47]	[+14]	[142.0]	[45]	[75]	[+29]	[163.1]
百貨店	121	132	+11	109.1	163	224	+60	137.1
不動産業	974	998	+23	102.4	1,413	1,530	+116	108.2
3D/デジタルビルド	309	337	+27	108.9	423	474	+50	112.0
不動産賃貸・販売	647	648	+1	100.2	909	1,035	+125	113.9
【不動産賃貸】(異種)	[203]	[281]	[+78]	[138.4]	[501]	[563]	[+62]	[112.4]
その他	1,190	1,310	+119	110.0	2,002	1,930	-72	96.4
ホテル	119	140	+20	116.9	153	210	+56	137.2
旅行	501	595	+93	118.7	876	702	-174	80.1
営業損失(▲) ^{*)}	▲1,755	▲794	+960	-	▲2,455	▲1,290	+1,165	-
運輸業	▲1,730	▲937	+793	-	▲2,515	▲1,505	+1,010	-
流通業	▲112	▲65	+46	-	▲190	▲35	+155	-
物販・飲食	▲97	▲53	+43	-	▲127	▲37	+90	-
百貨店	▲15	▲12	+3	-	▲22	0	+22	-
不動産業	232	240	+7	103.4	292	280	-12	95.7
3D/デジタルビルド	20	42	+21	208.4	20	39	+18	186.2
不動産賃貸・販売	152	137	▲14	90.4	189	160	▲29	84.5
その他	▲143	▲55	+87	-	▲57	0	+57	-
ホテル	▲81	▲69	+11	-	▲116	▲71	+45	-
旅行	▲95	▲2	+93	-	▲73	▲25	+48	-

^{*)} セグメントへの内訳は、主として会社の会計科目であり、セグメント計と一致しない。
^{**)} 準合併化業ホテル/デジタルビルドの会計科目です。ただし、運輸業(その他)、不動産(その他)は除外する。
^{*)} 2021年3月期の実績は、「収益調整」に関する会計処理を繰り越して適用した後の実績となっております。
^{*)} 2021年11月2日発表の通期予想値から変更しております。

- 連結決算の概要につきまして、セグメント別にご説明いたします。
- 流通業は、対前年で112億円の増収。利益面ではコロナ影響がやや軽減したことで赤字幅は縮小したものの、▲65億円の営業損失。なお、第2四半期累計が▲69億円の営業損失でしたので、第3四半期の3ヶ月では若干のプラスとなりました。
- 不動産業は、対前年で23億円の増収、営業利益は7億円増えて240億円となり、黒字を継続しています。
- その他事業は、ホテル業・旅行業における増収等により対前年119億円の増収となる1,310億円の営業収益、▲55億円の営業損失です。なお、既にご案内のとおり、日本旅行は新たな中期経営計画を昨年末に公表しています。
- 15ページをご覧ください。

各セグメントの主な増減要因

(単位：億円)

		2022年3月期 3Q累計実績				主な増減要因
		対前年				
		増減	比率(%)			
流通業	物販・飲食	営業収益	762	+101	115.3	・緩やかな需要回復による構内店舗、宿泊特化型ホテルの売上増 等
		営業損失	▲ 53	+43	-	
	百貨店	営業収益	132	+11	109.1	・緩やかな需要回復による店舗の売上の増等
		営業損失	▲ 12	+3	-	
不動産業	ショッピングセンター	営業収益	337	+27	108.9	・SC売上高回復による賃料収入の増 等
		営業利益	42	+21	208.4	
	不動産賃貸・販売	営業収益	648	+1	100.2	・賃貸物件の平年度化 等
		営業利益	137	▲ 14	90.4	
その他	ホテル	営業収益	140	+20	116.9	・緩やかな需要回復による宿泊部門の売上増 等
		営業損失	▲ 69	+11	-	
	旅行	営業収益	595	+93	118.7	・旅行、非旅行事業の増 等
		営業損失	▲ 2	+93	-	

※各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。

連結財政状況

(単位：億円)

	2021年3月期 期末* A	2022年3月期 3Q期末 B	増減 B-A
資産	34,773	37,249	+2,475
負債	25,211	25,928	+717
純資産	9,562	11,320	+1,758
長期債務残高	15,595	17,477	+1,882
【長期債務平均金利 (%)】	【1.28】	【1.18】	【▲0.10】
新幹線債務	1,009	1,004	▲5
【新幹線債務平均金利 (%)】	【6.55】	【6.55】	【-】
社債	8,399	9,899	+1,500
【社債平均金利 (%)】	【1.11】	【1.00】	【▲0.11】
自己資本比率 (%)	24.5	27.6	+3.1
1株当たり純資産 (円)	4,461.46	4,214.33	▲247.13

*2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております

15

- 純資産は9月に実施した公募増資による2,522億円の調達などにより増。
- 長期債務残高は、17,477億円と、第2四半期末からほぼ横ばいです。
- 16ページをご覧ください。

諸元表

(単位：人、億円)

	2021年3月期 3Q累計実績 ^{*2}	2022年3月期 3Q累計実績	2021年3月期 通期実績 ^{*2}	2022年3月期 通期予想(1/31) ^{*3}
連結ROA (%)	-	-	-	-
連結ROE (%)	-	-	-	-
連結EBITDA ^{*1}	▲ 471	401	▲ 708	350~700
連結減価償却費	1,275	1,187	1,734	1,635
連結設備投資 (自己資金)	1,261	1,117	2,166	2,450
単体設備投資 (自己資金)	901	790	1,674	1,700
安全関連投資	537	435	1,051	850
1株当たり配当金 (円)	50.0	50.0	100.0	100.0

	2021年3月期 3Q累計実績		2022年3月期 3Q累計実績		2021年3月期 通期実績		2022年3月期 通期予想(1/31) ^{*3}	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数 (就業人員)	48,406	23,982	47,212	22,790	47,984	23,900	-	-
金融収支	▲ 143	▲ 130	▲ 138	▲ 137	▲ 195	▲ 178	▲ 211	▲ 190
受取利息・配当金	8	21	22	22	9	24	7	22
支払利息	152	151	160	159	204	202	218	213

^{*1} EBITDA = 営業利益又は損失 + 減価償却費 + のれん償却額

^{*2} 2021年3月期の実績は、「収益認識に関する会計基準」を遡って適用した後の数値となっております

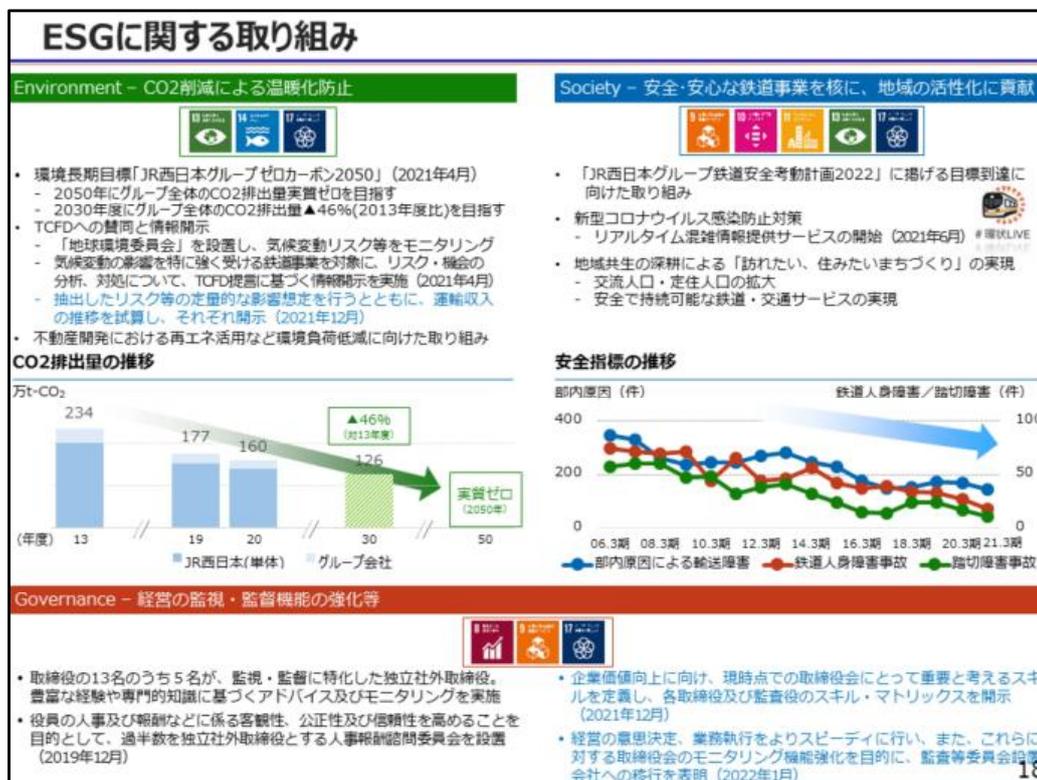
^{*3} 2021年11月2日発表の通期予想から変更していません

- 設備投資計画ならびに配当予想につきましては、前回予想からの変更はございません。
- 次に、18ページをご覧ください。

1 22.3期第3四半期決算及び通期予想の概要 P. 3

2 22.3期第3四半期決算及び通期予想（詳細） P. 7

3 ESGの取り組み P. 18



- ESGの取り組みに関する進捗につきましてご案内いたします。大きく2点ございます。
- 1点目、当社は2021年4月にTCFD提言への賛同を表明し、取り組みを進めてまいりました。今回、気候変動のリスク等に伴う影響について定量分析を行い、昨年末に開示を行っております。
- 2点目、ガバナンス面では、本日、監査等委員会設置会社に移行する方針につきまして株主総会の承認をいただくことを条件に、取締役会にて決議し、公表いたしました。中計見直しで掲げた変化対応力向上に向けて、迅速・果敢な経営の意思決定、業務執行を可能とするとともに、取締役会のモニタリング機能の強化等により、コーポレート・ガバナンスを一層充実・強化させ、企業価値の向上を図ってまいります。
- また、企業価値向上に向けまして、現時点での取締役会にとって重要と考えるスキルを定義し、各取締役および監査役のスキル・マトリックスを昨年末に開示しました。
- 引き続き、当社グループの企業価値向上に向け、プライム市場選択やコーポレートガバナンス・コード改訂の趣旨も踏まえ、サステナビリティの取り組みを含め、社会に提供する価値やその実現に向けた取り組み、重要な経営方針および経営戦略等の様々な中長期的経営課題について取締役会で議論を充実していきたいと考えております。
- この上位機関としての取締役会の見直しは、本社機能の再編を含むカンパニー制の強化を軸とした組織構造改革、そして検討を進めている地方組織の再編とセットで進めていく考えです。
- 最後に、第3四半期の3か月間は、期間を通じて回復基調が継続したこともあり、連結では各利益項目において8四半期ぶりに黒字を確保することができました。
- しかしながら、ご案内のとおりオミクロン株の感染拡大により、先行きは急速に不透明になっています。
- いずれコロナが収束した時点で、コロナ前の9割に戻るといった見方は変えていませんが、今期末あるいは来期初めは残念ながらwithコロナの状況で迎える可能性が高いと考えています。来期にむけては、今後経営計画を検討していくこととなりますが、いずれにせよ、中計見直しで掲げたコスト削減計画をしっかりと実現していく所存です。
- 私からの説明は以上です。

将来の見通しに関する注意事項

- 本スライドは、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとする重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
 - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
 - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
 - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
 - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
 - 感染症の発生・流行
 - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2022年1月31日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2022年1月31日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。
JR西日本ホームページ「IR情報」 <https://www.westjr.co.jp/company/ir/>